

NIPPON ELEVATOR CATALOG

スクリー式エレベーター

日本エレベーター製造

Lift trust
to the future.

CONTENTS

信頼を乗せて、未来へ運ぶ

高層ビル化、バリアフリー化が進む現在において
エレベーターは電気や水道と同じように、社会に欠かせないインフラです。

私たちは日本のエレベーター専門メーカーのパイオニアとして
1935年の創業以来、メイド・イン・ニッポンのものづくりにこだわり
お客様のニーズに一つひとつ丁寧に応えてきました。

何よりも安全という信頼を乗せて、誰かにとっての未来へ運ぶ。
「エレベーター一筋」で積み重ねた歴史と経験を誇りに、
これからも一台一台のエレベーターを大切につくり、見守りつづけます。

日本エレベーター製造株式会社

■「ISO9001」認証取得企業

01	日本エレベーター製造株式会社
02	CONTENTS
03-12	スクリー式エレベーター
13-14	安心の保守・管理
15	サービスネットワーク

スクリー式エレベーター

ピット深さが150mmの省スペース型エレベーター。
通常エレベーターの設置が困難な場所へのご提案。



今まで構造的な制約やコストの問題で設置が難しかった既存の駅へのエレベーター設置を容易にしました。
一般の建物に対しても有効なバリアフリー対応設備です。
スクリー式エレベーターの特色としては、必要ピット深さが150mmと浅いため、既存の駅舎や建物に設置する場合でも、建築コストを大幅に低減することができます。場合によっては、ピットを掘らずにスロープで施工することも可能であり、これは従来のロープ式や油圧式エレベーターではできない工法でした。
これまでエレベーターの設置は困難と諦めていた場所へのバリアフリー化は、スクリー式エレベーターにお任せください。



共同開発 | 東日本旅客鉄道株式会社

スクリー式エレベーターの特徴

ピットの深さは150mm。さらに機械室が不要

ピット深さ150mmを実現。機械室不要のメリットにより、中間階へのエレベーター設置を可能にしました。

ご採用例

駅舎2階のコンコースから3階ホームまでエレベーターを増設し、ピット下の1階スペースは、従来通り通路や店舗としてそのまま使用する。

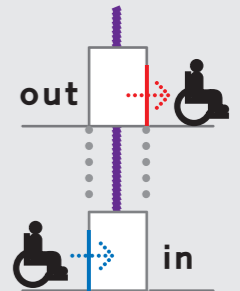
※ピット深さは、必ず、150mm以上確保願います。

※ピット下を通路や店舗として利用する場合、ピット床を二重スラブとしてください。

(事前に特定行政庁、指定確認検査機関への確認が必要です。)

**車いすをご利用の方も安心してご使用いただける
二方向出入口タイプ**

かご内に設けられた2つの出入口によって、車いすでご利用される方も方向転換は不要、乗り込んだ向きのまま降りることができます。また、設計の自由度を向上させるために、かごの出入口は貫通型と直角型の2タイプをご用意いたしました。

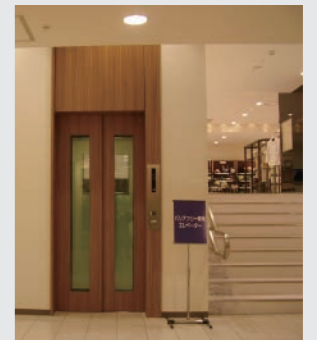


通路等の小段差解消としての用途に

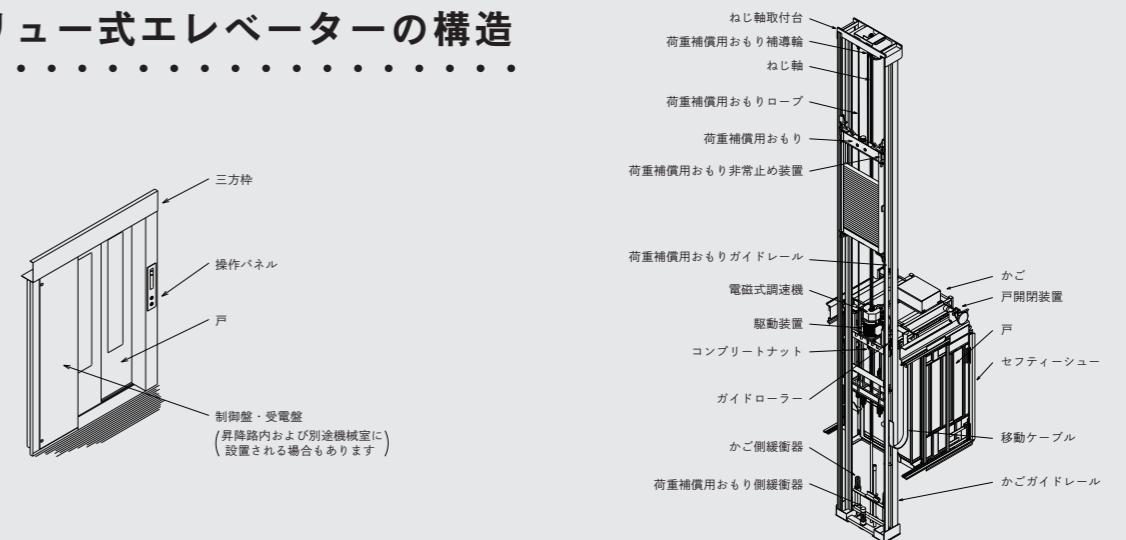
地下通路及び駅舎などでは、フロア間の段差が少ない場合があり、その点に於いてもスクリー式エレベーターは従来のエレベーターより有用となります。更に施設係員の方等による介添えの手間が省けるため、人員削減につながります。

※9人乗り(貫通・直角二方向)については昇降行程1200mm以上から対応可能。

※昇降行程2500mm以下の場合は、昇降路隣接部に制御盤等の設置スペースをご用意願います。



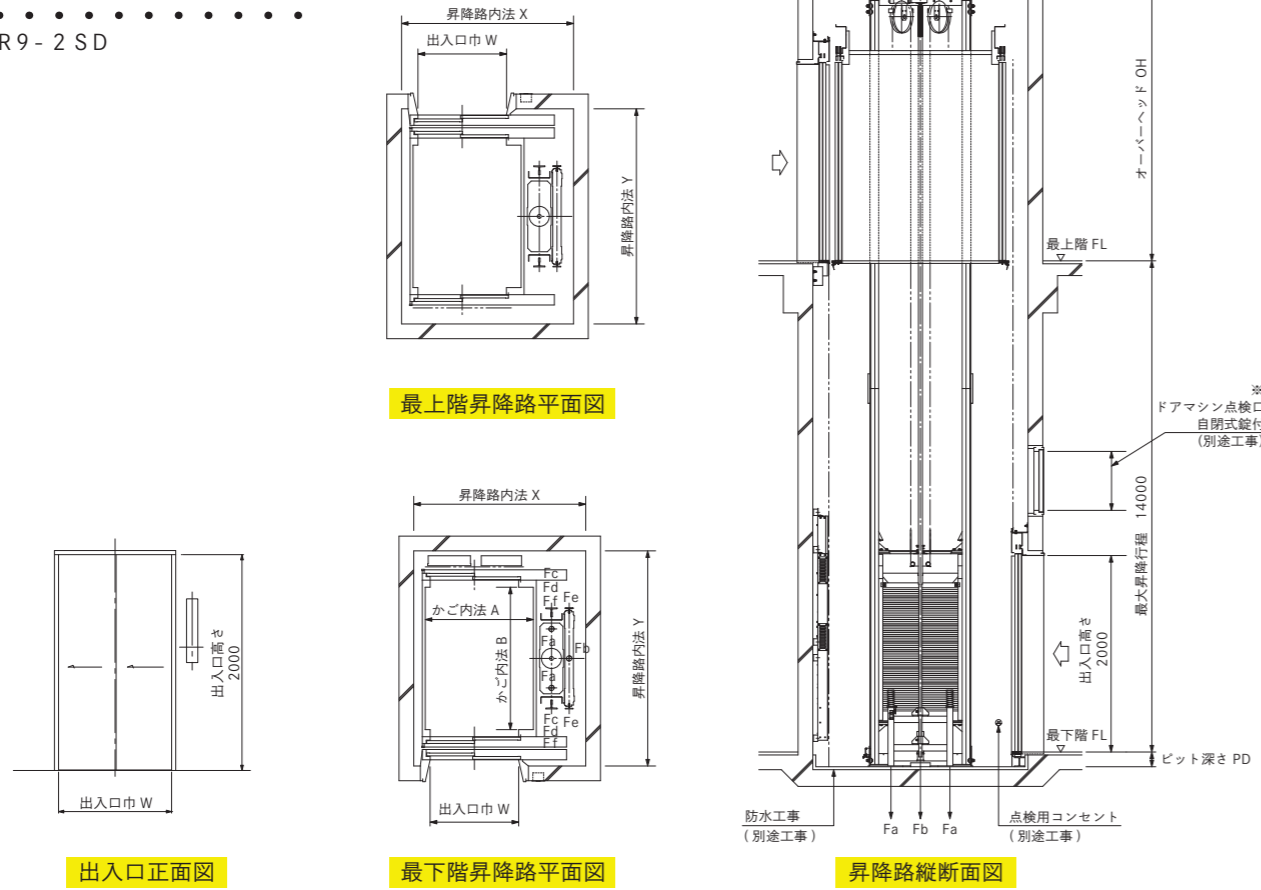
スクリー式エレベーターの構造



スクリー式 RC造 / 据付図

二方向出入口（貫通型）

SCDD-R9-2SD



※ 出入口が最下階のみにしか無い場合は、その出入口上部または最下階出入口側の上階のどこかに、ドアマシン点検口が必要です。ドアマシン点検口の必要サイズはW (出入口巾) × H500 以上です。ドアマシン点検口が設けられない場合はご相談ください。

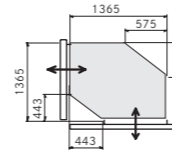
昇降路寸法表 (1)

(単位 mm)

形式	定員 (人)	積載量 (kg)	速度 (m/min)	かご内法			出入口 ※7			昇降路 ※2				電動機容量 (kW)			
				間口 A	奥行 B	高 H	型式	巾 W	高	S造内法 ※1		RC造内法			ビット深さ PD	オーバーヘッド OH	
										間口 X	奥行 Y	間口 X	奥行 Y				
SCDD-R9-2SD	9	600	30 (18) ※4	1100	1450	2100	貫通2方向	900	2000	昇降行程 (mm) ※3	1200 ≦ 14000	1730	2220	2220	150	2900	9.5
SCDD-R9-2S							1方向 ※5			2500 ≦ 14000	2030	1810	2030				
SCDD-R9-2SQ							直角2方向			1200 ≦ 14000	2250	1920	2320	1920			

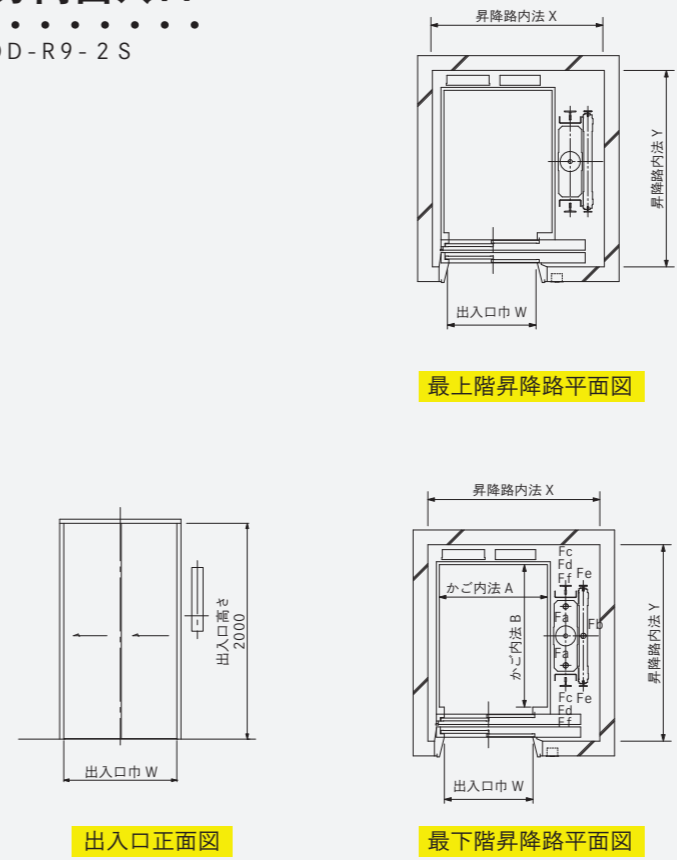
- ※1 S構造内法は柱・梁の耐火被覆の内寸法となります。
- ※2 昇降路内法寸法はビット防水仕上後の有効寸法です。
- ※3 昇降行程は出入口型式が一方の場合、最小2.5m。出入口型式が貫通、直角の場合、最小1.2mとなります。また、最大は14m (5停止) 以下となります。
- ※4 昇降行程が2.5m以下の場合、速度18m/分となります。
- ※5 出入口が1方向の機種は、バリアフリー新法には適合していません。(P11を除く)

- ※6 床内法面積の計算
面積 $A = 1.365 \times 1.365 - (0.443 \times 0.443 / 2 + 0.575 \times 0.575 / 2) = 1.6 (m^2)$
- ※7 出入口型式は、全機種2枚戸片開き式です。昇降機耐震設計・施工指針 (2016年版) 耐震クラスA14が基本です。耐震クラスS14をご用命の場合はご相談ください。



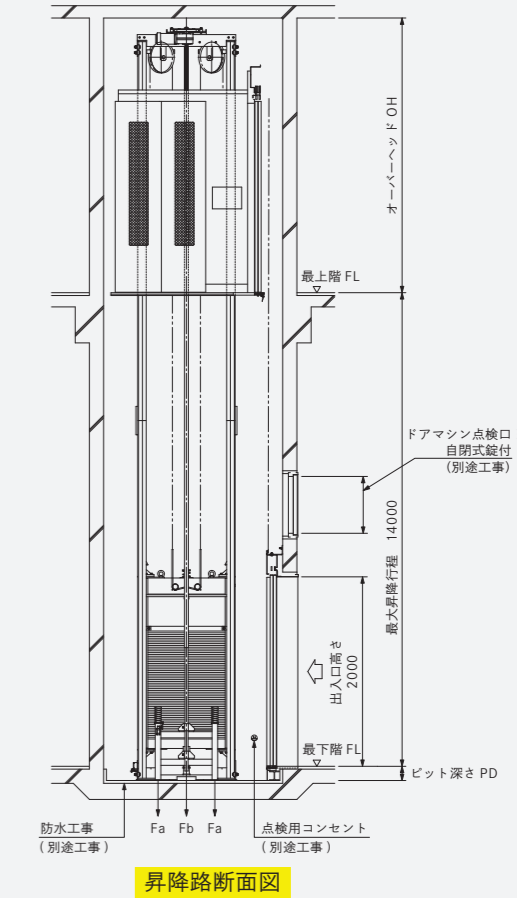
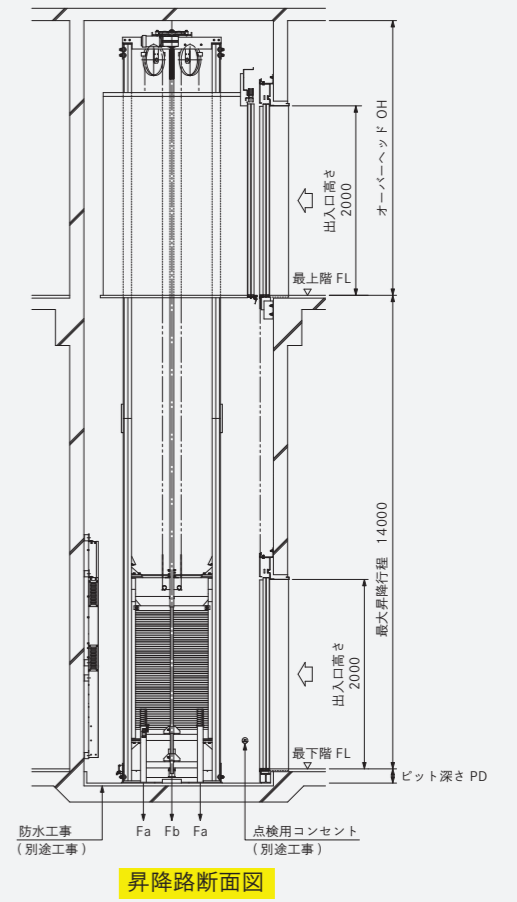
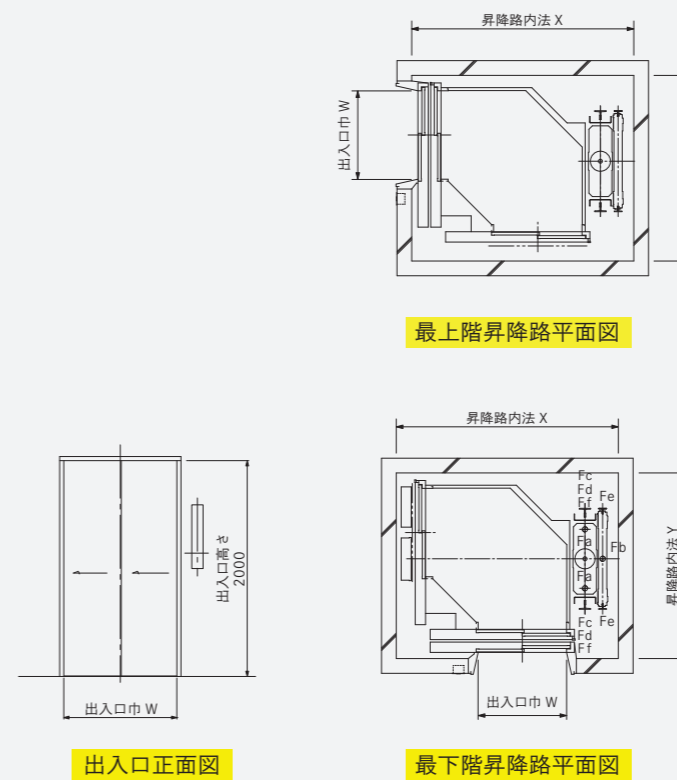
一方向出入口

SCDD-R9-2S



二方向出入口（直角型）

SCDD-R9-2SQ

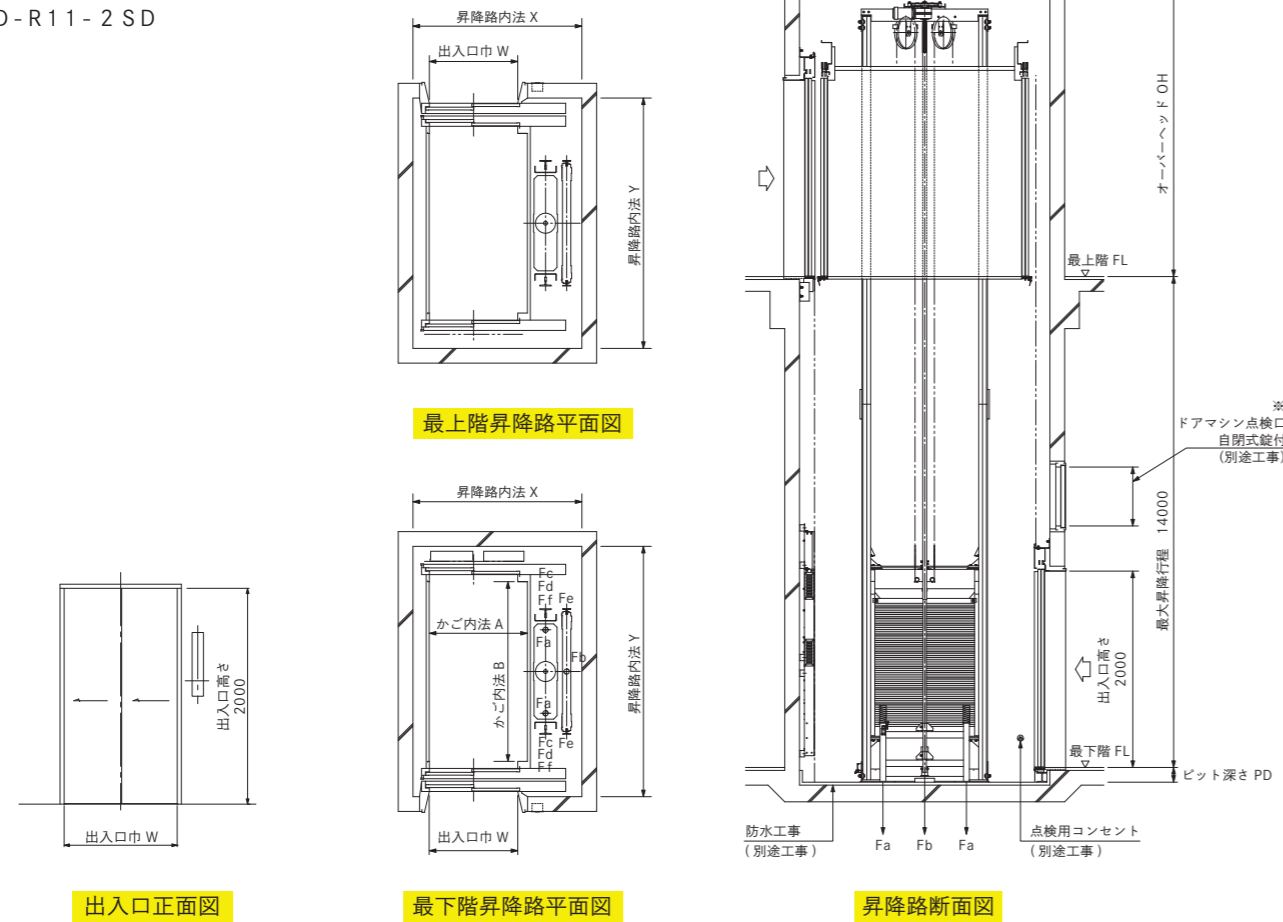


※ 出入口が最下階のみにしか無い場合は、その出入口上部または最下階出入口側の上階のどこかに、ドアマシン点検口が必要です。ドアマシン点検口の必要サイズはW (出入口巾) × H500 以上です。ドアマシン点検口が設けられない場合はご相談ください。

スクリー式 RC造 / 据付図

二方向出入口（貫通型）

SCDD-R11-2SD



※ 出入口が最下階のみにしか無い場合は、その出入口上部または最下階出入口側の上階のどこかに、ドアマシ点検口が必要です。ドアマシ点検口の必要サイズはW (出入口巾) × H500 以上です。ドアマシ点検口が設けられない場合はご相談ください。

昇降路寸法表 (2)

(単位 mm)

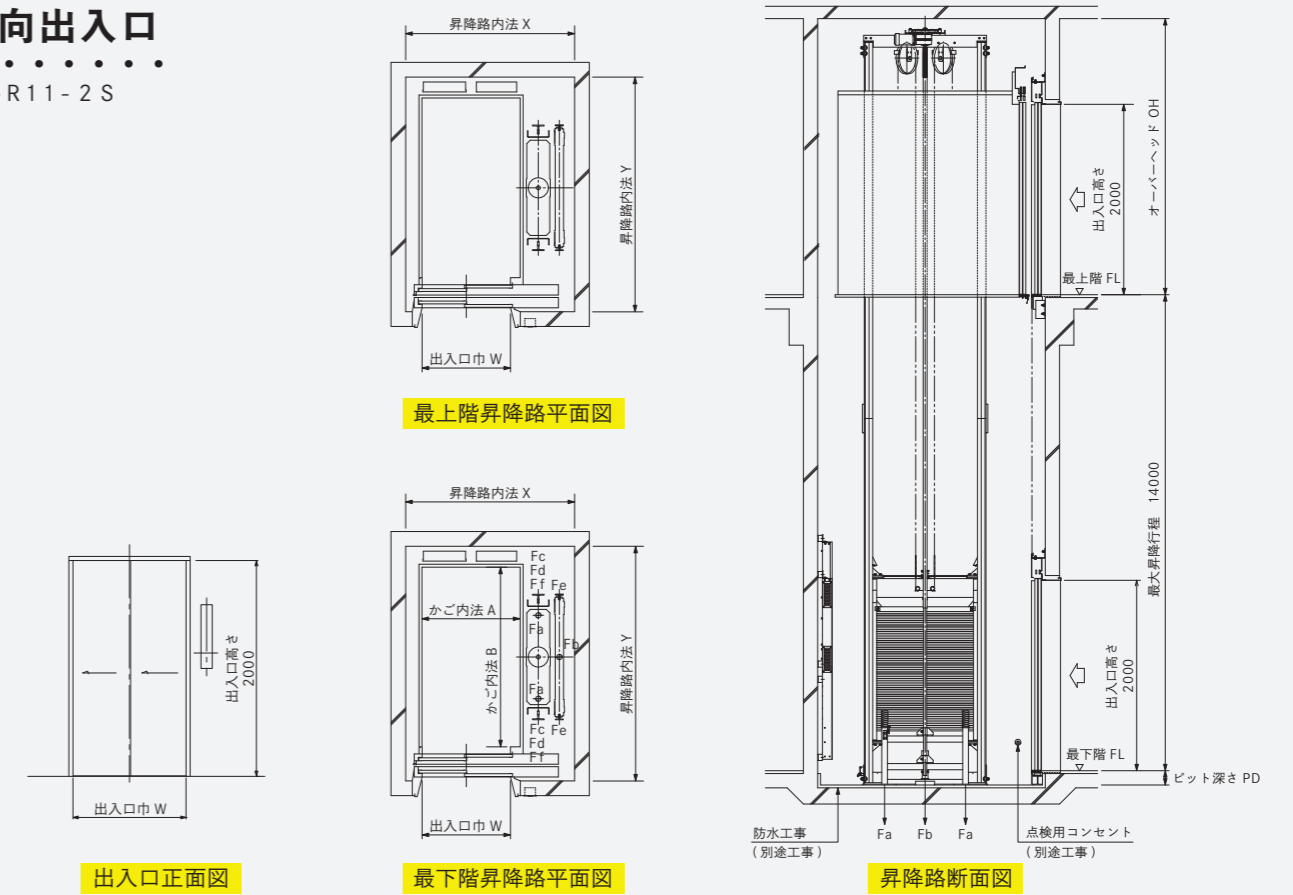
形式	定員 (人)	積載量 (kg)	速度 (m/min)	かご内法			出入口 ※5			昇降行程 (mm) ※3	昇降路 ※2				電動機容量 (kW)				
				間口 A	奥行 B	高 H	型式	巾 W	高		S造内法 ※1		RC造内法			ピット深さ PD	オーバーヘッド OH		
											間口 X	奥行 Y	間口 X	奥行 Y					
SCDD-R11-2SD	11	750	30 (18)	1000	1830	2100	貫通2方向	900	2500	1690	1770	2580	2580	150	2900	11 (9.5)			
SCDD-R11-2S							1方向										14000	2420	2420
SCDD-R11-2SQ							直角2方向												

※1 S構造内法は柱・梁の耐火被覆の内面寸法となります。
 ※2 昇降路内法寸法はピット防水仕上後の有効寸法です。
 ※3 昇降行程は最大14m(5停止)、最小2.5mとなります。
 ※4 出入口が1方向の機種は、バリアフリー新法には適合していません。(P11を除く)

※5 出入口型式は、全機種2枚戸片開き式です。
 ※ 昇降機耐震設計・施工指針(2016年版)耐震クラスA14が基本です。耐震クラスS14をご用命の場合はご相談ください。

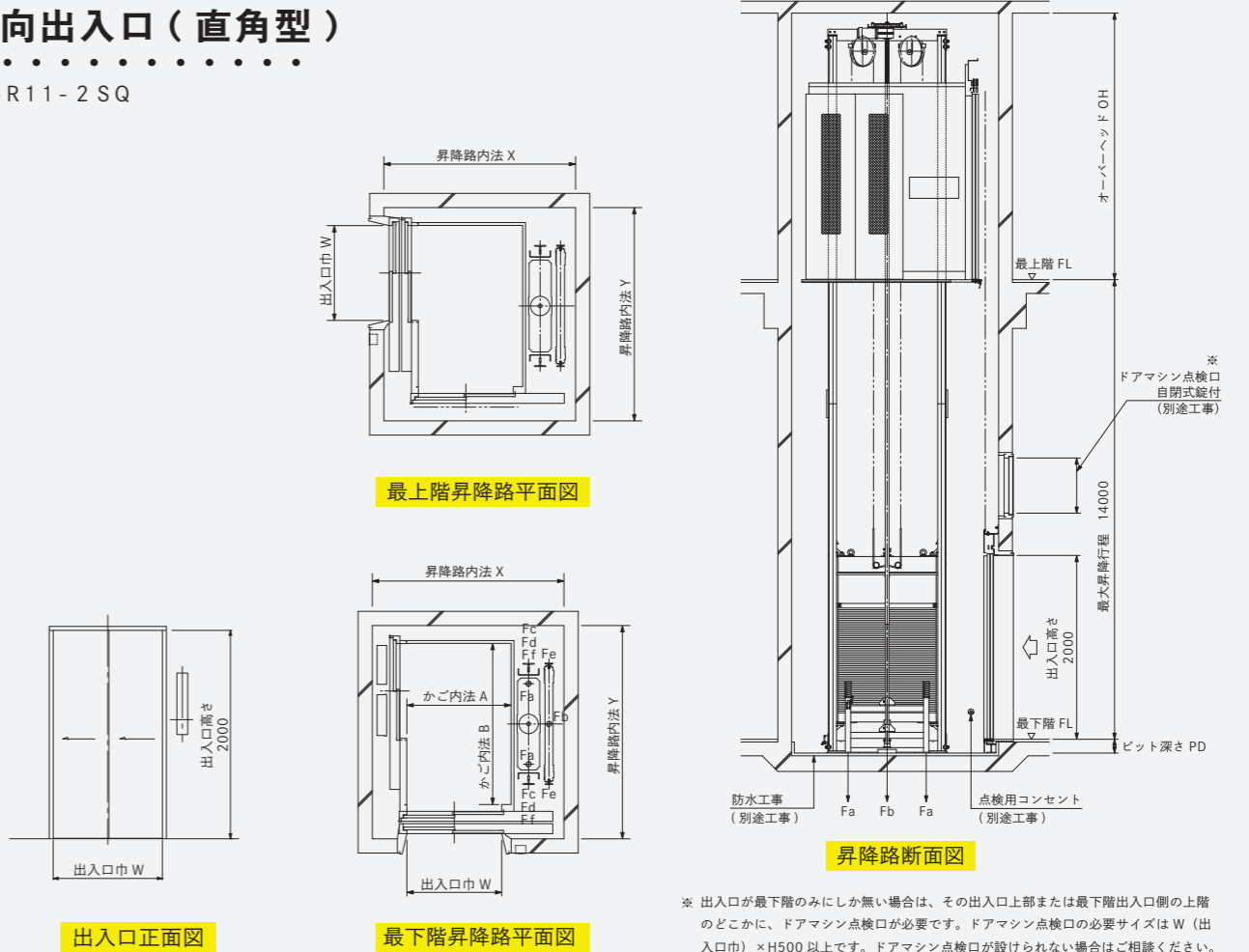
一方向出入口

SCDD-R11-2S



二方向出入口（直角型）

SCDD-R11-2SQ

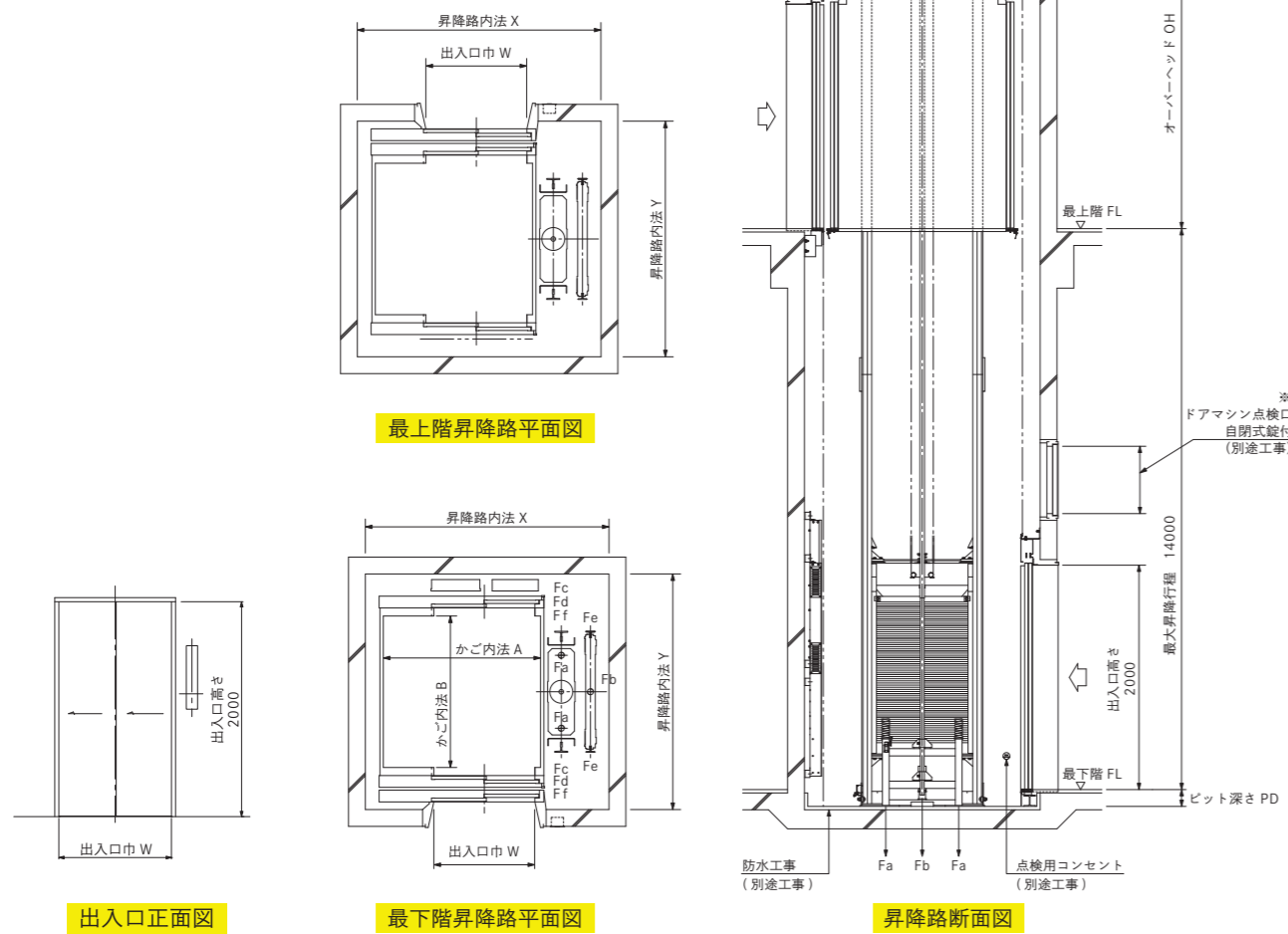


※ 出入口が最下階のみにしか無い場合は、その出入口上部または最下階出入口側の上階のどこかに、ドアマシ点検口が必要です。ドアマシ点検口の必要サイズはW (出入口巾) × H500 以上です。ドアマシ点検口が設けられない場合はご相談ください。

スクリー式 RC造 / 据付図

二方向出入口 (貫通型)

SCDD-P11-2SD



※ 出入口が最下階のみにしか無い場合は、その出入口上部または最下階出入口側の上階のどこかに、ドアマシン点検口が必要です。ドアマシン点検口の必要サイズは W (出入口巾) × H500 以上です。ドアマシン点検口が設けられない場合はご相談ください。

昇降路寸法表 (3)

(単位 mm)

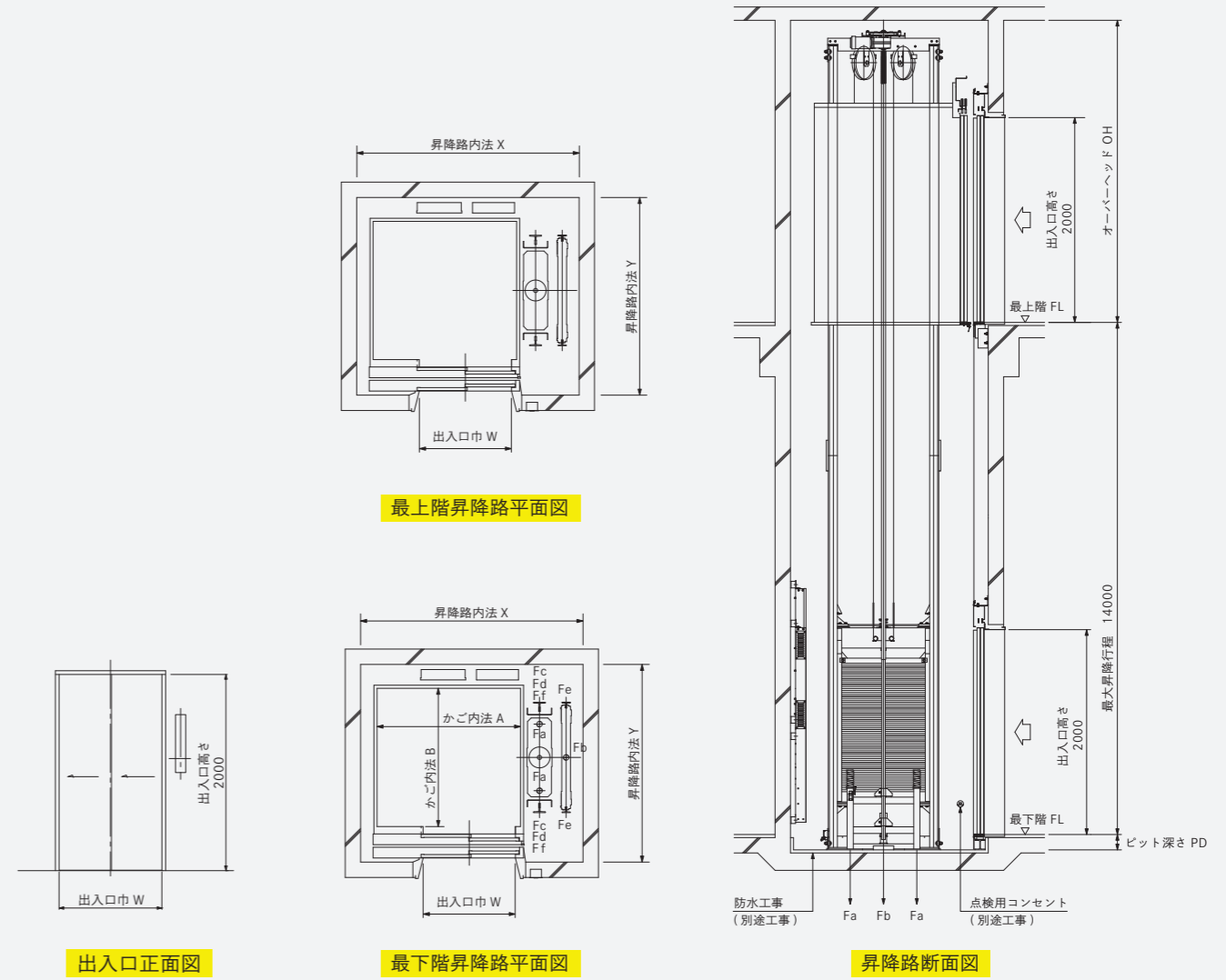
形式	定員 (人)	積載量 (kg)	速度 (m/min)	かご内法			出入口 ※4			昇降行程 (mm) ※3	昇降路 ※2				電動機容量 (kW)		
				間口 A	奥行 B	高 H	型式	巾 W	高		S造内法 ※1		RC造内法			ピット深さ PD	オーバーヘッド OH
											間口 X	奥行 Y	間口 X	奥行 Y			
SCDD-P11-2SD	11	750	30 (18)	1400	1350	2100	貫通2方向	900	2000	2500 ≤ 14000	2140	2130	2210	1960	150	2950	11 (9.5)
SCDD-P11-2S																	

※1 S構造内法は柱・梁の耐火被覆の内寸法となります。
 ※2 昇降路内法寸法はピット防水仕上後の有効寸法です。
 ※3 昇降行程は最大 14m(5停止)、最小 2.5m となります。

※4 出入口型式は、全機種 2 枚戸片開き式です。
 ※ 昇降機耐震設計・施工指針 (2016 年版) 耐震クラス A14 が基本です。耐震クラス S14 をご用命の場合はご相談ください。

一方向出入口

SCDD-P11-2S



R9 型の場合

(地震荷重は A14 クラス)

(単位 kN)

各部荷重	
Fa かが緩衝器衝突時短期荷重	23.3
Fb ウェイト緩衝器衝突時短期荷重	21.9
Fc かがレール下部長期荷重	23.9
Fd かが側レール下部安全装置作動時短期荷重	24.6
Fe ウェイト側レール下部安全装置作動時短期荷重	22.1
Ff かが側レール下部地震荷重	30.0
Px 地震荷重	7.7
Py 地震荷重 + Pe かが偏荷重	9.5

R11・P11 型の場合

(地震荷重は A14 クラス)

(単位 kN)

各部荷重	
Fa かが緩衝器衝突時短期荷重	29.1
Fb ウェイト緩衝器衝突時短期荷重	29.1
Fc かがレール下部長期荷重	28.0
Fd かが側レール下部安全装置作動時短期荷重	28.5
Fe ウェイト側レール下部安全装置作動時短期荷重	29.4
Ff かが側レール下部地震荷重	35.1
Px 地震荷重	9.9
Py 地震荷重 + Pe かが偏荷重	12.0

スクリー式

仕様一覧

●：基本仕様 ○：有償付加仕様

項目	仕様		
操作方式	乗合全自動方式	●	
管制運転	地震時管制運転（リスタート機能付）	●	
	停電時自動着床装置	●	
	自家発時管制運転	○	
	火災時管制運転	○	
	冠水時管制運転	●	
福祉仕様	正操作盤（車いす用操作盤型インターホン付）	●	
	副操作盤（車いす用操作盤型表示窓付）	●	
	視覚障がい者対応仕様	●	
	聴覚障がい者対応仕様	○	
安全機能	戸開走行保護装置 U C M P	●	
	マルチビームドアセフティ	●	
	敷居すき間 25mm	●	
	敷居すき間 10mm	○	
	遮煙性能付乗場戸	○	
安心機能	かご内防犯カメラ	○	
サービス機能	戸開き延長ボタン	○	
案内機能	音声合成アナウンス機能（標準仕様）	●	
	音声合成アナウンス機能（特殊仕様）	○	
	かご内案内板	○	
400V電源（一次側）		○	
かご	照明	LED照明	●
	天井	鋼板塗装	●
	側壁	化粧鋼板	●
		ステンレスヘアライン（9人乗りは除く）	○
	戸	化粧鋼板	●
		防犯窓付戸（ガラス W200×H1300）	●
		ステンレスヘアライン（9人乗りは除く） 防犯窓付戸（ガラス W200×H1300）	○
	出入口柱	ステンレスヘアライン	●
	幅木	ステンレスヘアライン	●
	床	ビニルタイル	●
	敷居	硬質アルミ	●
		ステンレスヘアライン	○
	鏡	ステンレスミラー	●
操作パネル	フェースプレート ステンレスヘアライン	●	
戸開方向表示灯	フェースプレート ステンレスヘアライン 出入口上部取付（一方向出入口は除く）	●	
乗場	三方枠	小枠鋼板塗装	●
		大枠ステンレスヘアライン	○
	戸	鋼板塗装	●
		防犯窓付戸（ガラス W200×H1300）	●
		ステンレスヘアライン	○
		防犯窓付戸（ガラス W200×H1300）	○
	敷居	ステンレスヘアラインエッチング	○
		防犯窓付戸（ガラス W200×H1300）	○
	敷居	硬質アルミ	●
ステンレスヘアライン		○	
操作パネル	フェースプレート ステンレスヘアライン	●	

工事範囲外の建築・設備工事

次の項目については除外工事によりエレベーターの見積りに含まれておりません。

建築・設備工事として別途に施工くださるようお願いいたします。

別途工事内容		
建築 工事 関係	昇降路の築造・耐火処理工事及び各階乗場工事。（インジケーター・押しボタン用開口を含む） （コンクリート打ちの誤差 30mm以上の所は、必要に応じ、はつり又は肉付け工事）	○
	鉄骨構造・P C構造の昇降路における各階のファスナー設置工事、乗場関係機器取付け用鋼材の設置工事、又はインサート埋込み工事。（レールブラケット取付用中間ビーム又は立柱設置工事を含む）	○
	乗場敷居受けコンクリート持ち出し工事。	○
	鉄骨構造の昇降路における鉄骨部分の耐火処理工事。	○
	各階乗場出入り口枠周囲のモルタル埋め工事。	○
	乗場関係機器取付け後の各階出入り口周囲の壁、床、その他建設物補修仕上工事。	○
	併設エレベーターの間仕切り工事、又は中間ビーム設置工事。 （ビット床に段差がある場合の安全柵を含む）	○
	ビット内防水仕上工事。（必要に応じ排水設備工事を含む）	○
	ビットが深い場合の埋戻し工事。	○
	昇降路頂部に機器荷上げ用のトロリービーム又はフックの取付工事。	○
	トップビーム及び受梁の設置工事。	-
	マシンビーム受け用インサートプレート埋込み工事。	-
	昇降路内跳ね出しスラブの設置工事。	-
ビット点検用出入り口設置工事。	-	
急行ゾーンがある場合の昇降路救出口設置工事。	-	
屋外に面した乗場の庇、床勾配及び排水溝等の雨水侵入防止対策工事。	○	
二方向出入口の場合の昇降路点検口の設置工事。	○	
機械 室	機械室の築造・耐火処理工事及び同出入口設置工事。（必要に応じ防音対策工事を含む）	-
	機械室床の開口スリーブ工事。	-
	機械室天井に機器荷上げ用のトロリービーム又はフックの取付工事。 （トロリービーム又はフックは吊り荷重 30kN 以上のものを設置）	-
	エレベーター機械台受梁の設置工事。	-
	機械室床配管後のシンダーコンクリート打設工事及び防塵仕上げ工事。 （シンダーコンクリート厚 約 100mm（仕上げを含む））	-
	巻上機等の機械類搬入口の設置及び復旧工事。	-
採光窓及び換気口の設置工事。	-	
設備 工事 関係	エレベーター受電盤までの動力電源・照明電源・接地線の引込み、並びにつなぎ込み工事。 （医療機器、放送用機器、P C 機器等の電源と動力電源の電源系統分離工事を含む）	○
	機械室の照明設備及び点検用コンセント設置工事。	-
	ビットの点検用コンセント設置工事。	○
	機械室、昇降路の換気又は空調設備工事。	○
	外部インターホン・非常ベル用の配管配線工事。	○
	火災警報の無電圧接点の支給及び配管配線工事。	○
	一般・非常放送用線の配管配線工事。	○
	エレベーター遠隔監視用電話線の配管配線工事。	○
	監視盤・監視カメラ用の配管配線工事。	○
	監視盤までの電源線の引込み工事。	○
自家発電電源識別用の無電圧接点の支給及び配管配線工事。	○	
自家発電電源の供給設備工事。	○	
昇降路頂部又は機械室天井の煙感知器の設置及び配管配線工事。	○	

- ※ 機械室と昇降路内温度は40℃、湿度は月平均90%・日平均95%を超えないようにしてください。
- ※ 機械室と昇降路には有害ガスや甚だしい塵埃等が入らないようにしてください。
- ※ エレベーター部品の搬入に支障のない経路を確保願います。
- ※ エレベーター機械室受電端における電源電圧の変動は5%以内、電圧不平衡率は5%以内に保つようしてください。
- ※ 漏電遮断機はインバーター用又は高周波に対して不要動作をしない製品を使用してください。
- ※ 据付工事用仮設電源、試運転用電力等は無償供給願います。
- ※ エレベーターを工事用として使用する場合は別途ご相談ください。
- ※ エレベーター部品、据付材料の保管場所を無償貸与願います。
- ※ 昇降路内の騒音・振動等が居室に伝播しない配置及び躯体構造（防音・防振工事等）としてください。
- ※ 躯体が承諾図と相違がある場合は、エレベーター着工日までに躯体の修正をお願いいたします。

安心の保守・管理

保守のご契約を頂きますと、エレベーターの管理情報は設計・製造情報とともに Nichele Note（当社データベース）に蓄積され、定期点検・法定検査・修繕工事はもちろん、あらゆる“万が一”に迅速かつ確実なサポートが可能となります。製造メーカーだからこそその情報量・部品供給力、そして技術員が24時間365日待機する全国ネットワークで、お客様に安全・安心をご提供します。

遠隔監視システム

サポートセンターでは、エレベーター側に設置した通信端末装置を通して、24時間365日、お客様のエレベーターの状態をリモートで見守っています。万が一の突発的な故障が発生した場合でも、サポートセンターではその内容を瞬時に確認し、最寄りの技術員による復旧の手配をスピーディーに行います。



遠隔監視システムの特徴

1. 遠隔監視機能

エレベーター主要機器の状態を監視すると同時に、トラブル発生時にかご内のお客様に安心していただけるよう、サポートセンターからインターホンを通して直接通話が可能となります。

2. 機械監視機能

(1) 遠隔自動点検

技術員による訪問点検とは別に、エレベーター制御装置に蓄積された運行データを取得します。お客様へは、「エレベーター機械監視点検報告書」・「エレベーターご利用状況」にて、エレベーターの状況を月次でご報告します。

※ 報告書はお客様よりご要求がある場合にお渡ししています。

(2) 変調診断

エレベーター制御装置に蓄積された機器の状態変化を捉え、「軽レベル」・「重レベル」の識別を行い、その情報を技術員へ伝達します。これにより、故障の予防保全・早期復旧が可能となります。

3. 遠隔救出機能

万が一の閉じ込めが発生した場合には、サポートセンターで故障データを確認し、かご内防犯カメラによる映像とインターホンによる通話でかご内の状況も確認しながら、遠隔操作により救出を行います。

※1 この機能の装備には、電話回線が2回線必要となります。1回線は遠隔監視機能・機械監視機能に使用し、もう1回線は画像転送用に使用します。

※2 エレベーターの法定安全装置が作動している場合には、遠隔救出機能を作動できない場合があります。

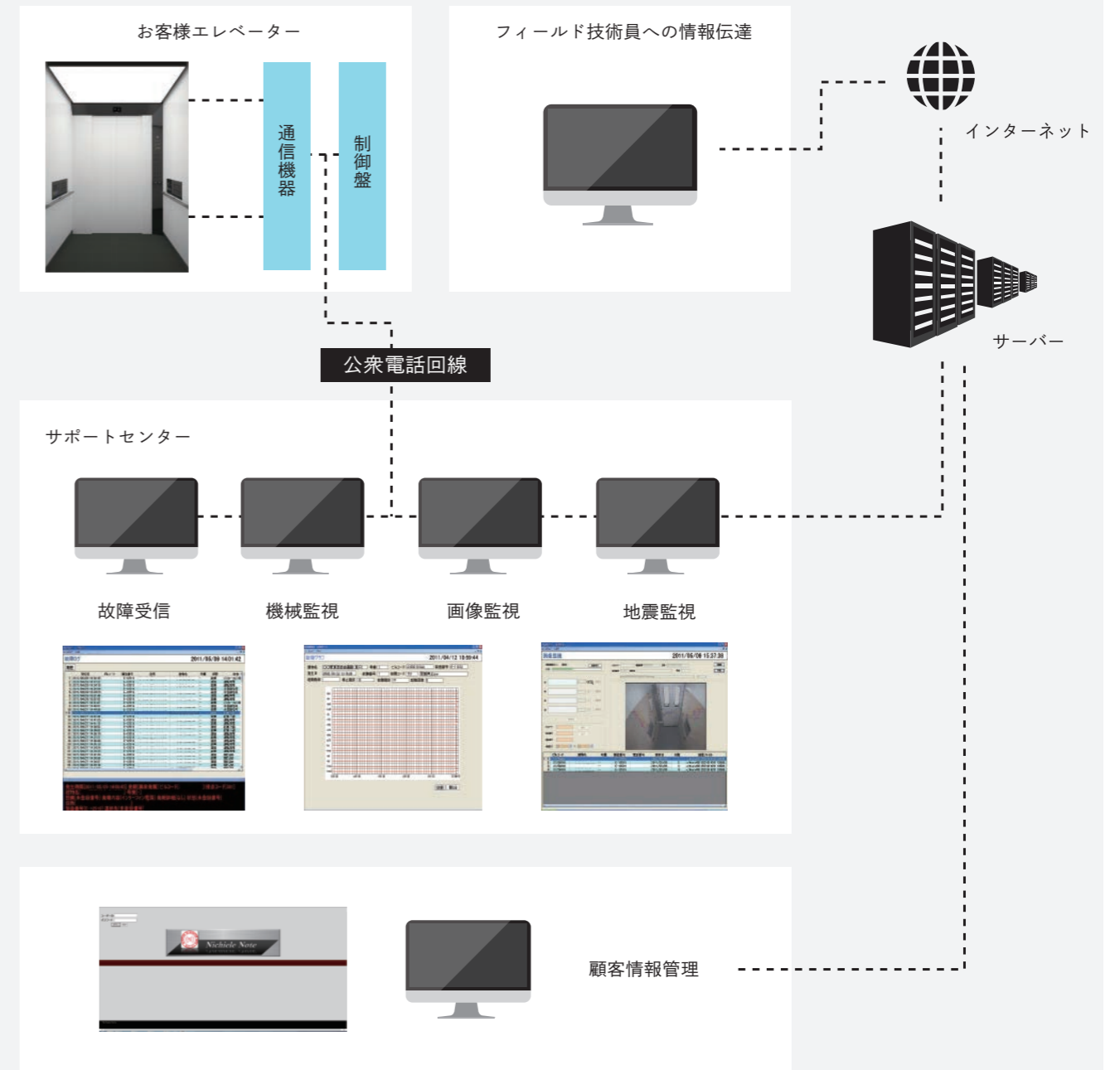
※3 この機能は、万が一の閉じ込め故障発生時に復旧させる機能となります。本復旧には技術員による訪問点検が必要となります。

4. 地震時自動診断・復旧システム

地震時管制運転で休止したエレベーターを、自動で異常診断運転を行い、異常が認められない場合には、一時的に復旧させるシステムです。なお、復旧したエレベーターは技術員による点検（本復旧）が必要です。

※ このシステムには当社と保守(機械監視)契約が必要となります。

5. 遠隔監視システム構成



お客様のエレベーター情報は設計・製造段階から Nichele Note に登録され、フィールド技術員からの技術情報も蓄積・故障分析・部品交換周期などに反映されています。

サービスネットワーク

Nationwide Network in Japan

末永く「安全・確実」エレベーターをご利用していただくため、遠隔監視システムや故障通話の充実を図り、保守・管理を担う拠点を全国に配し、万一の場合にも迅速な対応をさせていただきます。

詳細は当社までお問い合わせ下さい。
ご相談・お問合せを心よりお待ちしております。



本 社 : 〒101-0032 東京都千代田区岩本町 1-10-3 TEL : 03-3866-0261
工 場 : 〒343-0844 埼玉県越谷市大間野町 1-7 TEL : 048-987-0111

営業所

札幌営業所 : 〒060-0806 北海道札幌市北区北 6 条西 6-2-12 TEL : 011-788-6860
仙台営業所 : 〒983-0852 宮城県仙台市宮城野区榴岡 1-6-3 TEL : 022-742-2031
名古屋営業所 : 〒453-0035 愛知県名古屋市中村区十王町 2-1 TEL : 052-461-3111
大阪営業所 : 〒550-0001 大阪府大阪市西区土佐堀 2-4-9 TEL : 06-6441-8021
福岡営業所 : 〒812-0008 福岡県福岡市博多区東光 2-3-18 TEL : 092-411-0193

フィールドセンター

東京フィールドセンター : 〒101-0032 東京都千代田区岩本町 1-1-5 TEL : 03-3864-4951
北海道フィールドセンター : 〒060-0806 北海道札幌市北区北 6 条西 6-2-12 TEL : 011-736-9155
東北フィールドセンター : 〒983-0852 宮城県仙台市宮城野区榴岡 1-6-3 TEL : 022-742-2035
名古屋フィールドセンター : 〒453-0035 愛知県名古屋市中村区十王町 2-1 TEL : 052-461-3111
大阪フィールドセンター : 〒550-0001 大阪府大阪市西区土佐堀 2-4-9 TEL : 06-6443-3287
九州フィールドセンター : 〒812-0042 福岡県福岡市博多区東光 2-3-18 TEL : 092-431-2704

<http://www.nichiele.co.jp/>

■当社ホームページも併せてご覧ください。

日本エレベーター製造

〒101-0032 東京都千代田区岩本町 1-10-3
TEL:03-3866-0261 FAX:03-3864-8533
<http://www.nichiele.co.jp>

■[発行] 2019年6月
■カタログに掲載した内容は、予告なく変更することがありますのでご了承下さい。